

令和2年度 病虫害発生予察 特殊報 第2号

病虫害名： ブルーベリー類うどんこ病（仮称）

病原：*Erysiphe elevata* (Burrill) U. Braun & S. Takam.

対象： ブルーベリー

1. 病虫害情報の内容

ブルーベリーにおけるうどんこ病（仮称）の発生を都内で初めて確認した。

2. 発生経過

- 令和2年5月下旬～9月にかけて、都内各地の露地及び一部の施設栽培のブルーベリー圃場において、葉の表や裏面に赤褐色の斑点が多数生じ、時に、斑点上やその周囲に白色菌糸をわずかに形成する症状が確認された。
- 令和2年7月から法政大学植物医科学センターに罹病葉を送付して原因菌の確認を依頼した結果、*Erysiphe elevata*と同定された。本菌によるブルーベリー類への病害は国内外において報告がないため、令和3年3月の日本植物病理学会においてブルーベリー類うどんこ病（仮称）として提案されている。
- 本病は、令和2年に長崎県から特殊報が発表されている。

3. 病徴等（図1～3）

- 葉の表面では退緑あるいは赤褐色斑、裏面では赤～茶褐色斑を多数生じ、表または裏面に薄い白色粉状の菌叢を形成する。なお、閉子のう殻は確認されていない。
- 一部の葉では、湾曲などの奇形症状が見られる。
- 枝や果実での発病は、現段階では確認されていない。
- 発生が確認されている品種は現在のところ、ラビットアイ系のウイトウ、ウッタード、オンスロー、コロンプス、ティフブルー、フェスティバル、ブライトウェル及びホームベルである。

4. 防除対策

令和3年3月25日現在、ブルーベリーにおいて本病に適用のある薬剤はないため、発病株の罹病葉及び剪定枝などは、圃場外へ持ち出して埋却するなど適正に処分する。

5. 参考文献

- 日本植物病理学会(2021) 令和3年度日本植物病理学会大会講演要旨予稿集
- 長崎県病虫害防除所 令和2年度病虫害発生予察情報特殊報第1号



図1 葉表の赤褐色斑



図2 葉裏の赤褐色斑



図3 赤褐色斑上の薄い白色粉状の菌叢と、葉の湾曲